

九州大学経営協議会議事録

日 時：平成29年1月24日（火）13：00～14：45

場 所：九州大学 椎木講堂大会議室

出席者：28名中23名出席

【紹介】

新任の本学役員について紹介があった。

【審議事項等】

1 平成29事業年度長期借入金の認可申請について

平成29事業年度の移転整備事業に係る長期借入金認可申請について説明があり、審議の結果、これを議決した。

2 平成29年度予算の内示について

平成29年度の文部科学関係予算案、国立大学法人関係予算案、本学の予算内示及び施設整備予算案の概要について、報告があった。

なお、以下のような質疑応答があった。

- ・戦略1の「評価項目ごとの評価結果」はA、Bのみであるが、「戦略の評価結果」がCとなっているのはなぜか。

→「評価項目ごとの評価結果」が点数化され、積み上げられた合計点により「戦略の評価結果」が決定されている。重点支援③の中では2番目に多い再配分の率を得ており、良い評価を受けたものと捉えている。

- ・病院の経営状況が向上したとのことだが、具体的にどういった要因があったのか。

→手術室を1室増やしたことにより手術件数が年間10,000件を超えたことで、経営状況の向上に結びついたものと分析している。

3 財務レポート2016について

財務レポート2016について、報告があった。

4 中期目標・中期計画の変更について

教育関係共同利用拠点（基幹教育院）の設置に伴う中期目標の変更及び重要な財産の譲渡計画、学生収容定員の変更に伴う中期計画の変更について説明があり、審議の結果、これを議決した。

なお、以下のような質疑応答があった。

- ・文理の壁を越えたりベラルサイエンスの取組みを行う際に、一般的な課題として以下の二点が挙げられる。1. 教員側が専門のバックグラウンドにとらわれ、授業がアカルティックになりがち。教員側も文理融合のマインドを持つことが重要。2. 学生がどういうところに就職するかが重要なメルクマールとなるが、現状、企業の採用では事務系・技術系などと分かれていることもある。企業側とのコミュニケーション、就職先の開拓も必要。

→貴重なご意見として承る。1. について、基幹教育院においては、専門分野の異なる教員が1つのクラスを担当するシステムを構築するなど、教員側の文理融合について積極的に取り組んでいるところ。2. 出口については、新しく立ち上げる共創学部にて

においては、異分野をつないで課題を解決する人材育成を目的としている。企業側とコミュニケーションをとって取り組んでいきたい。

- ・アドミッションオフィサーとはどういった役割か。アドミッションオフィサーが大学の求める学生像を決めるのか。

→入試を専門にするスタッフで、大学全体の入学選抜において中核的な役割を果たす。

今までは部局独自に入試戦略を行ってきた部分があるが、アドミッションオフィサーが各部局とコミュニケーションをとり、大学全体の求める学生像との調和を図っている。

5 主幹教授の選定について

主幹教授制度の概要及び新たに5名の主幹教授を決定したことについて、報告があった。なお、以下のような質疑応答があった。

- ・人文社会科学系の主幹教授が少ない印象を受ける。主幹教授の選考基準が自然科学系の教員が選考されやすいようにも見えるがいかがか。

→割合としては確かに少ないが、数名いる。また、所属は自然科学の部局ではあるが、社会科学のバックグラウンドを持って文理融合の取組みを進めているような教員も含まれている。なお、人文社会科学系教員から科学研究費助成事業・基盤研究（A）等へのアプライは増えており、今後主幹教授の資格を満たす教員が増加することを期待している。

- ・女性の主幹教授が少ない。基準を見直すことも考慮してはいかがか。

→貴重なご意見として承る。

【その他、報告事項等】

○ 共創学部設置構想について

平成30年4月に予定されている共創学部の設置構想について説明があり、以下のような質疑応答があった。

- ・共創学部に限ったことではないが、大学の教育研究活動は大きく変化してきている。社会、特に高校生への情報発信はどのようにしているか。

→高大接続の取組みはセミナー、講演会などを通じて発信してきている。また現在、高校、企業に調査を行うなど、社会の求める人材像についても調査を行っている。

→記者懇談会における共創学部の発表は、記者の反応が大きく、社会の関心の高さが伺えた。共創学部に限らず、九州大学の情報はメディア、社会に向けてあらゆる機会を捉えて発信している。また、同窓会は九州大学にシンパシーを感じる方々の集まりであるので、発信効果は大きい。直接会って語りかけることが重要だと認識している。

- ・政府が検討を進めている高大接続改革では、入試改革が話題となっているが、高校、大学の教育改革を含んだ話である。共創学部の取組みを全キャンパスに広げていただきたい。また現在は日本における教育制度の転換期にあるので、九州大学には教育改革のリーダーシップを取っていただきたい。

○ 教育研究プログラム等への取組み状況等について

卓越大学院プログラム、指定国立大学法人、研究戦略データ集等について、本学の取組状況の報告があった。

【懇談会】

会議後、懇談会として「The current status and next strategy of AI & Big Data in Japan」について説明があった。

なお、以下のようなコメントがあった。

- ・直面する社会的課題の解決のために AI、ビッグデータの活用が期待されている。大学の先生が生データを扱えない等の課題はあるが、九州大学には本分野をリードしていくことを期待している。

(以 上)